

阿賀野川

aganogawa E-toko dayori

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない
「宝もん」へ。

映画製作の拠点「阿賀の家」(阿賀町石間)の前で記念撮影する若き7名の映画スタッフ(※左から4人目は、「阿賀の家」を訪れたドキュメンタリー映画監督の柳沢寿男氏)／村井勇氏撮影
もくじ ●

映画「阿賀に生きる」の今日的な意義を考える

流域の社会・暮らし・環境の
歴史や記憶をどう継承していくべきか

昨年度、新潟水俣病は公式確認60年を迎えました。当時、10〜20代だった人々も今や70〜80代になり、あの頃の社会や暮らし、環境に関する人々の記憶は、急速に薄れてきています。

これまでのFM事業(※1)では、阿賀野川流域の「水や大地の豊かさ」に着目して、流域の過去と現在を知り、今後のSDGs(※2)を考えるツアー講座やパネル展を開催してきました。こうした取組には地域の歴史を読み解く必要があり、そのためにはさまざまな時代の社会や暮らし、環境に関する記録や記憶が重要になりますが、年々失われつつあるのが現状です。

映画「阿賀に生きる」の製作は、昭和30〜40年代の社会や暮らし、環境が、時代の流れで否応なく変化する中でその断片や痕跡を記録し、かつ記憶する試みでもありました。後世において歴史から教訓を導き出す際に、その参照元となる記録や記憶をどう継承していくべきか、そのヒントを探るために、今年度のFM事業では、映画「阿賀に生きる」の誕生経緯や製作過程をひも解きます。

特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2026 〜昭和50年代から平成にかけての阿賀流域をめぐる〜 ・映画「阿賀に生きる」& 「阿賀のお地蔵さん」の世界をたどって	2
特集2 令和8年度パネル巡回展 ・映画「阿賀に生きる」が生まれた あゝ頃の阿賀野川	4
阿賀野川流域イベント情報ほか 令和7年度阿賀野川流域ロバダン！マップ インフォメーション	6 7 8

※1「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。 ※2「Sustainable Development Goals」(=持続可能な開発目標)の略称。

～ 昭和50年代から平成にかけての阿賀流域をめぐる ～

映画「阿賀に生きる」& 「阿賀のお地蔵さん」 の世界をたどって

現地バス
ツアー
11/8 (日)
8:30～17:00
定員 40名

事前座学
(&映画上映)
11/3 (火・祝)
14:10～16:30
定員 40名
(※映画上映12:00～13:55)

ハイブリッド
形式で開催

村井勇氏撮影 ▲映画「阿賀に生きる」の撮影風景

「阿賀に生きる」「阿賀のお地蔵さん」など
当時の文化運動の今日的な意義を探る

昨年度のフォーラムでは、昭和40年代後半から
阿賀野市(旧安田町)で阿賀野川沿岸の集落に暮
らす被害者への支援を続けてこられた旗野秀人
さんへのインタビュー動画を「YouTube
(YouTube)」上で配信しました(※次頁参照)。
動画は昭和57年に新潟水俣病第二次訴訟が
提起される直前までを振り返る内容でしたが、
その後、旗野さんの支援活動をベースとして映画
「阿賀に生きる」が製作され、二次訴訟の和解後
に「阿賀のお地蔵さん」が建立されています。
今回の講座では、川と共に生きた人々の暮らし
が消えつつあった昭和50年代から平成にかけ
て展開されたこうした当時の文化運動の今日
的な意義について、旗野秀人さんと共に、歴史
を振り返りつつ現地を巡って探ります。

▲阿賀のお地蔵さんを解説する旗野秀人さん
家業の大工を継ぎながら被害者の支援を続けて、映画
「阿賀に生きる」製作、「阿賀のお地蔵さん」建立に関わった。

主催 ● 新潟県 後援(予定) ● 新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町 企画・運営 ● 一般社団法人 かがのがわ環境学舎

虫地藏 ▶ 阿賀のお地蔵さん

▼水俣地藏



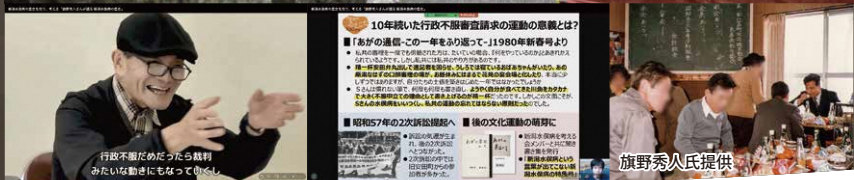
新潟水俣病第二次訴訟
の和解から2年ほど経過した
1998年に、みんなが仲良く暮
らせるようにとの願いを込めて、
熊本県水俣市の石から作ら
れた水俣地藏が、阿賀野市
(旧安田町) 千唐仁集落の
虫地藏の隣に建立された。



▲ 映画「阿賀に生きる」
佐藤真監督をはじめ、7名の若いス
タッフが阿賀野川流域に住み込み、
新潟水俣病というテーマを根底に据
えながら、中～上流沿岸に暮らす3組
の老夫婦を中心に、かつて川と共に
生きた人々の暮らしや阿賀流域の風
土を、3年かけてフィルムに収めたドキュ
メンタリー映画(1992年／115分)。

阿賀野川エコミュージアムを目指す
流域再生フォーラム(第14回)

旗野秀人さんが語る 新潟水俣病の歴史 開催 レポート YouTube 動画



昭和50年代の新潟水俣病の歴史を語る
令和8年3月29日に「YouTube(ユー
チューブ)」上で、旗野秀人さんへのインタビュ
動画をライブ配信しました。
旗野さんが被害者支援に本格的に取り組む
のが昭和50年代で、それが後に新潟水俣病第二
次訴訟や映画「阿賀に生きる」製作などの文化
運動につながります。
この動画では、これまであまり語られる機会
がなかった昭和50年代の被害者支援の取組を中
心に、旗野さんからお話をお聴きしました。

◀アーカイブ動画はこちら
旗野さんへのインタビューの合
間には、新潟水俣病の歴史解説
が挿入されています。



映画「阿賀に生きる」誕生に至る歴史や、製作経緯などを振り返る



当日は、旗野秀人さんをお招きして、映画「阿賀に生きる」誕生に至る経緯など、豊富な資料をもとに歴史を振り返ります(※ライブ配信あり)。また、当日は座学の前に、映画「阿賀に生きる」の上映も行います(※当日の映画上映への参加は必須ではありません／映画上映はライブ配信は行いません)。

事前座学
&映画上映
11/3 (火・祝)
14:10～16:30
※映画上映12:00～13:55
ライブ配信あり
※映画上映のライブ
配信はありません

事前座学
のみの参加
も歓迎です!

場所 NOCプラザ1階 103号室
(住所: 〒950-8756 新潟市東区卸新町2丁目853番地3)

定員 会場参加:40名 / ライブ配信:定員なし
(※当日はYouTubeライブで配信)

※「会場参加」を希望された方で、抽選に外れた場合、メールアドレスをお持ち
であれば、「オンライン配信」を視聴できるアドレスを送信いたします。

参加費 無料 ※現地バスツアーへの参加を希望される
場合、座学講座には必ずご参加ください。

集合場所 新潟駅南口(貸切バス乗り場)
または 安田交流センター風(ふう)とびあ

定員 40名 参加費 1,500円/名(※昼食代)
※現地バスツアーへの参加を希望される場合、座学講座には必ずご参加ください。

映画・地蔵の関連スポットを巡る

当日は、旗野秀人さんのガイドで、映画
「阿賀に生きる」や「阿賀のお地蔵さん」な
どの関連スポットを巡ります。

現地バス
ツアー
11/8 (日)
8:30～17:00

申込方法

下記事項を電話やFAXにてお知らせいただくか、申込フォーム(二次元コードまたは下記URL)から、**10月22日(木)までに**お申し込み願います。なお、当落結果のお知らせが10月25日(日)までに届かなかった方は、お問い合わせ願います。 電話・FAX:0250-68-5424 URL: <https://forms.gle/ZFZNAKsX6JrikQod9>



フリガナ お名前	ご住所		〒
電話番号	※当日連絡が取れる携帯電話番号優先		メールアドレス ※メールアドレスがない場合は、11/3事前座学のオンライン(ライブ配信)参加はできません
参加有無 (※座学は必ず参加)	11/3事前座学 (※希望に○)	会場参加 (※メールアドレスがない場合は参加不可)	オンライン参加 (※希望に○)
11/8ツアー (※希望に○)	参加する	参加しない	
ご同伴者 (※いच्छれば)	フリガナ お名前	フリガナ お名前	フリガナ お名前

※いただいた個人情報は、「阿賀流域・連続ツアー講座」及び「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム」の開催案内や実施、及び、「阿賀野川えとこたより」の送付を目的とした用途以外に使用することはありません。なお、ご同伴者を含めて申し込まれた場合は、同じグループとみなして抽選いたしますので、当落結果は別々にはならず一緒になります。

過去（R5～R7）のパネル展示作品のご紹介



大地編 令和7年度制作
水と大地が織りなしてきた持続可能な豊かさは？



公害編 令和6年度制作
流域が新潟水俣病に向かい、乗り越えるために



大河編 令和5年度制作
清らかな水を守り活かす持続可能な豊かさは？

展示を希望される方や団体には、無料で貸し出しております。
詳しくは、右記の [あがのがわ環境学舎](#) までお問い合わせください。

新潟水俣病関連事業・開催レポート

新潟水俣病公式確認61年

新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるつとめ



▲新潟県立大学の学生による取組発表の様子

新潟水俣病公式確認61年の式典を5月31日にふれあい館で開催
新潟水俣病公式確認の日である5月31日に、新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるためのつとめを、新潟県立環境と人間のふれあい館新潟水俣病資料館にて開催しました。当日は、被害者の方々を始め、有識者、教育関係者、関係企業、行政関係（国、流域市町、新潟県など、約100名の方々が式典に出席されました。
式典では被害者の方、流域市町や県議会、そして、環境省や原因企業から後世に向けたメッセージが伝えられました。また、第26回新潟水俣病環境賞作文コンクール優秀賞受賞者の中学生による作文朗読のほか、昨年度、新潟水俣病関連情報発信事業に取り組んだ新潟県立大学の学生から取組成果を披露していただきました。



◀今年度から、式典当日の様子は、動画(YouTube)でご覧いただけます。



◀県ホームページから、後世へのメッセージや、作文・取組発表の内容を確認できます。



映画「阿賀に生きる」が生まれたあの頃の阿賀野川

川と共に生きる暮らしが消えつつあった、平成初期の阿賀野川流域で、新潟水俣病の被害者3家族の暮らしを、3年かけて映画化した7名の若者たちがいた。なぜ、この映画は撮影されることになり、実際どのように製作が進められたのか、映画「阿賀に生きる」の誕生経緯を紐解き、今日的な意義を探ります。

開催期間

2027. 1/7 (木) ～ 3/31 (水)

開催スケジュール(※下表参照)

主催 新潟県
共催(予定) 新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町

お問合せ&企画

一般社団法人 あがのがわ環境学舎
TEL&FAX 0250-68-5424



展示期間	展示施設	展示時間・備考
1/7(木)～1/17(日)	安田ショッピングセンター ウインディ	9:00～19:00
1/14(木)～1/24(日)	新潟市秋葉区文化会館	9:00～21:30
1/19(火)～2/2(火)	NEXT21 アトリウム	8:30～21:00 最終日18:00まで
1/27(水)～1/31(日)	ラポルテ五泉 ガレリア	9:00～22:00 初日13:00から 最終日18:00まで
2/2(火)～2/14(日)	阿賀野市立図書館	9:30～16:30 月曜休館 初日13:00から/最終日13:00まで
2/4(木)～2/15(月)	北方文化博物館 屋根裏ギャラリー	9:00～16:30 火曜休館 正門から入場
2/16(火)～2/28(日)	新潟市東区役所 南口エントランスホール	8:00～18:00 展示場所は1階エスカレーター脇
2/18(木)～3/4(木)	阿賀町役場鹿瀬支所	9:00～16:30 2/23(火)・土曜・日曜休館
3/1(月)～3/10(水)	新潟市北区文化会館	9:00～21:00 3/8(月)休館 初日13:00から
3/6(土)～3/30(火)	道の駅「阿賀の里」	9:00～16:00
3/13(土)～3/31(水)	江南区文化会館内 江南区郷土資料館	10:00～19:00 金曜休館/日曜10:00～17:00 最終日12:00まで



令和7年度 阿賀野川流域 ロバダン!マップ

「ロバダン!」(炉端談義)の開催状況(令和7年4月～令和8年3月)が一目でわかるマップ。
令和7年度はF M事業 & 阿賀野川エコミュージアムを合わせて、37件開催しました。



- | | | | |
|----------------|-----------------|---------------|---------------|
| 1 新潟水俣病ロバダン1 | 11 新潟水俣病ロバダン2 | 1 流域環境学習ロバダン1 | 11 水環境学習ロバダン3 |
| 2 流域産業ロバダン1 | 12 流域資源活用ロバダン2 | 2 流域産業ロバダン1 | 12 流域産業ロバダン2 |
| 3 公害学習ロバダン1 | 13 新潟水俣病ロバダン3 | 3 流域環境学習ロバダン2 | 13 流域産業ロバダン3 |
| 4 流域資源活用ロバダン1 | 14 公害学習ロバダン5 | 4 水環境学習ロバダン1 | 14 流域産業ロバダン4 |
| 5 公害学習ロバダン2 | 15 新潟水俣病ロバダン4 | 5 流域環境学習ロバダン3 | 15 流域産業ロバダン5 |
| 6 流域歴史・文化ロバダン1 | 16 新潟水俣病ロバダン5 | 6 水環境学習ロバダン2 | 16 流域産業ロバダン6 |
| 7 流域産業ロバダン2 | 17 流域歴史・文化ロバダン2 | 7 企業研修ロバダン | 17 流域自然環境ロバダン |
| 8 公害学習ロバダン3 | 18 新潟水俣病ロバダン6 | 8 流域環境学習ロバダン4 | 18 流域撮影ロバダン |
| 9 公害学習ロバダン4 | 19 流域歴史・文化ロバダン3 | 9 流域鉱山ロバダン1 | |
| 10 地域再生ロバダン | | 10 流域鉱山ロバダン2 | |
- (※ロバダンの番号は開催順です)



▲昭和30～40年代の阿賀野川流域の人々の暮らしの様子(提供:大橋憲造氏)



阿賀野川流域の歴史や文化、 昭和30～40年代の暮らしの 様子を語り合いませんか？

近年、地域の歴史や暮らしの様子を残したいと、「ロバダン!」(炉端談義)を希望される方が増えています。
昭和30～40年代に10～20代の子どもや若者だった方々は、現在70～80代のご年齢になり、昔の暮らしの様子や、地域の歴史・文化に関する記憶は、社会の中から急速に薄れつつあります。こうした記憶を後世に残していくため、**下記テーマなどでお話を聞かせていただける方は、ぜひお気軽にお声がけください！**

◆「ロバダン!」(炉端談義)のテーマ

- 地域・集落の歴史・文化
- 昭和30～40年代の暮らし
(ご両親やご自身の職業/食生活など)

お問合せ 一般社団法人 阿賀野川環境学会
TEL 0250-68-5424 E aganogawa@niigata.email.ne.jp

流域トピックス

「阿賀路」が note 開設

東蒲原郡の郷土誌「阿賀路」(※「阿賀路の会」編集・発行)が、メディアプラットフォームnote(ノート)に専用ページを開設しています。興味のある方は、ぜひご覧ください。



← 詳しくは...
※note(ノート)に開設した「阿賀路」のページは、左の二次元コードから、ご覧ください！

阿賀野川流域イベント情報



クリーンセンター あがのがわフェスタ2026

日時 2026年11月1日(日)
10時～15時(※雨天決行)

場所 クリーンセンターあがのがわ
(住所: 五泉市清瀬84-2)

その他 参加無料

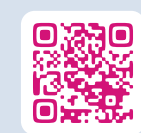
「クリーンセンターあがのがわ」は、五泉市・阿賀野市・阿賀町の地域から出るごみを処理する施設で、2025年4月から本格的に稼働し始めました。

昨年度に引き続き、クリーンセンターあがのがわの2回目となるイベントを開催いたします。
クリーンセンターに行って、環境について楽しく勉強しましょう！

◆プログラム・内容◆(※予定)

工場見学クイズラリー/ワークショップ
/はたらく車の展示/クレーンゲーム/
施設バックヤードツアーほか

※「施設バックヤードツアー」は、事前申込みとなります。10月1日～13日にクリーンセンターあがのがわホームページ(※右の二次元コードからリンク)で受付。お申込み多数の場合は抽選となります。



主催 荏原環境プラント株式会社・株式会社ごせんEサービス
お問合せ 株式会社ごせんEサービス TEL 0250-47-5386
五泉地域衛生施設組合 TEL 0250-43-3852

新潟水俣病資料館ニュース



展示会・阿賀に生きる展
～阿賀に生きるから生まれた「宝物」～
展示日時 2026年9月30日(水)まで
(※休館日: 9/14・24・28)
9:30～16:30(※最終日15:00)

◆特別企画◆ 映画上映会 & 展示説明会 9月22日(火・祝) 13時～
○映画は『ところでどした!』『阿賀に生きる』その後のその後』を上映
○トークショー: 旗野秀人氏×佐藤睦監督 ○展示説明: 旗野秀人氏

会場 新潟県立環境と人間のふれあい館
-新潟水俣病資料館-

お問合せ 住所 新潟市北区前新田字新々園乙364-7
TEL 025-387-1450 / FAX 025-387-1451
メール fureai@abeam.ocn.ne.jp
ホームページURL http://www.fureaikan.net/





▲▼第27回表彰式(写真提供:新潟水俣病被害者の会)



第27回

受賞作品発表

第27回作文コンクールの授賞式が開催されました!

このコンクールは、新潟水俣病被害者の「こんな苦しみは自分たちだけでたくさんだ。子や孫に同じ苦しみを味わわせてはならない」という切なる思いから、次代を担う子どもたちに身の回りの環境に関心をもってもらおうと、新潟県内の小・中学生を対象に毎年開催されています。

優秀賞受賞者と作品テーマ

◆小学校5・6年生の部

「となりにある自然」



上杉美遥さん
(新潟市立豊田西小学校5年)

「私の考え」



島崎樹奈さん
(新発田市立住吉小学校5年)

「『知る勇気、伝える責任』」



荻荘百合さん
(新潟市立豊田西小学校5年)

※作文の全文は、「阿賀野川え〜とこだ!流域通信」に掲載しています。右の二次元コードから、ぜひご覧ください!



主催:新潟水俣病被害者の会、新潟水俣病阿賀野患者会/後援:新潟県、県教育委員会、新潟市・新潟市教育委員会、阿賀野市・阿賀野市教育委員会、五泉市・五泉市教育委員会、阿賀町・阿賀町教育委員会、長岡市・長岡市教育委員会、上越市・上越市教育委員会、三条市・三条市教育委員会、柏崎市・柏崎市教育委員会、新発田市・新発田市教育委員会、小千谷市・小千谷市教育委員会、加茂市・加茂市教育委員会、十日町市・十日町市教育委員会、見附市・見附市教育委員会、村上市・村上市教育委員会、燕市・燕市教育委員会、糸魚川市・糸魚川市教育委員会、妙高市・妙高市教育委員会、佐渡市・佐渡市教育委員会、魚沼市・魚沼市教育委員会、南魚沼市・南魚沼市教育委員会、胎内市・胎内市教育委員会、聖籠町・聖籠町教育委員会、弥彦村・弥彦村教育委員会、田上町・田上町教育委員会、出雲崎町・出雲崎町教育委員会、湯沢町・湯沢町教育委員会、津南町・津南町教育委員会、刈羽村・刈羽村教育委員会、関川村・関川村教育委員会、粟島浦村・粟島浦村教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM新潟77.5、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエムしまばら、FMやきく、三条エフエム放送局、エフエム角田、山ほのかラジオ、FMとおかち、JVC 上越ケーブルビジョン

「阿賀野川え〜とこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え〜とこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第43号はいかがでしたでしょうか?

映画「阿賀に生きる」には、阿賀野川の中〜上流沿岸に暮らす老夫婦3組の暮らしが描かれています。この映画をご覧になられた方々は多いと思いますが、その製作経緯や背景をご存知の方は、あまりいらっしゃらないと思いますので、この機会にぜひさまざまなイベントにご参加し、ご理解を深めていただければ幸いです。



表紙の写真:「阿賀に生きる」スタッフ

映画製作の拠点「阿賀の家」の前で、スタッフが記念に撮影した一枚。左から、この写真を撮影されたスチール・村井勇さん、助監督、撮影・小林茂さん、さらに、右から録音、撮影助手、録音助手、そして「阿賀の家」で飼っていた猫を抱く佐藤真監督。

阿賀野川え〜とこだより 第43号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2026年9月10日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX. 0250-68-5424

aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川え〜とこだ!流域通信

<https://aganogawa.info/>

// え〜とこだよりのバックナンバーも見れます! //

